



# 校長室だより

令和6年度

2月10日

NO. 45

## みんなつながっている。だからみんなで考える。



ゴミについて考える



カードで遊びながら学ぶ



海のゴミは海だけのものではない



「海洋ごみ」と聞いても、ピンときませんでした。今回の話を聞いて、この山間の秦梨も関係することが分かりました。渥美半島の西の浜に流れ着く「海洋ごみ」は、毎月、掃除をしても減らず、年々増えているそうです。そしてそのごみは、海岸のものだけでなく、愛知県各地、さらに岐阜県の山間部からも流れつくのです。(中には「岡崎市観光協会」のコーンも…) 水害時にはもちろん、普段、風で飛ばされたゴミも、川から海に流れ込み、そして西の浜に打ち上げられるのだそうです。

今年度の様々な環境教育や災害教育の一環として、今回の授業では、環境ボランティア「亀の子隊」の鈴木先生、グリーンフロント研究所の方々、更に愛知県環境局の方にもおこしいいただき、海岸の環境問題について勉強しました。子供たちは、ごみと共に打ち上げられるスナメリの姿に心を痛め、深刻な問題だと受け止め、自分たちにできることを考えました。

こうした課題に対して大切なのは、自分の問題として考えることです。子供たちは、「捨てようとしている人を止める」「ゴミを減らす」「ポスターを作ったりゴミの分別をしたりする」などの子も、自分にできる対策を真剣に考えました。その中の「家族や友達に話したい。いろんな人に知ってもらおう」という意見に心を動かされました。まさに今回の授業の目的であり、多くの人につながっていくことが大事だからです。

02/5「さえずり」さんの読み聞かせ 「十二支のおはなし」(内田麟太郎)、「たべてあげる」(ふくべあきひろ)、「小さな雪の結晶」(ジェファレストジヤコフ)、「いもくぼり」(伊藤秀男)、「うそうそかわうそのむかしばなし」(はやしますみ)、「ねこのそら」(きくちちき)、「加珈くんと加珈ー」(いしがみしゅんいち)、「ちよとつ」(立川治樹)、「ウエ王子とラ」(フェンジャホ)、「もし、世界にわたしがしなかつたら」(ビクター・サトウ)、「はじまりの日」(アサー・ピナド)